

特集—海と島の日本・IV

- ・韓国との国際交流をめぐる対馬の現状と島人の想い
齋藤 潤……………35
- ・海洋深層水を活用した新事業の展開
——新潟県佐渡島
本誌編集部……………62
- ・海の視座から見る〈国生み〉神話
——〈島々〉の誕生と海への靈性
菅田正昭……………72



韓国との国際交流をめぐる 対馬の現状と島人の想い

齋藤 潤

古来、日本と朝鮮半島との通航や軍事上の重要拠点となっていた国境の島・対馬。韓国・釜山からわずか五〇キロの距離にあるこの島では近年、韓国人観光客が急増、生活習慣や文化の違いなどから島人との間にトラブルもみられ、韓国資本による宿泊施設や不動産の買収などが問題化している。こうした動きを対馬の人々はどう考え、どのように対処しているのか。また、朝鮮半島との安定した関係確立こそが繁栄の大前提だった島の振興策はどうあるべきなのか――。住民の意識を中心に、国境最前線の島の実情へ迫る。

―― 韓国の影が色濃い国境の島

―― 歓迎はしないが受け入れるしかない

―― 一く二泊の観光ツアー、四〇歳以上の男女、対馬は初めて

―― 観光情報を提供、買い物も手伝う

―― 日本人こそ対馬の素晴らしさを知ってほしい

―― ビザ免除、船の増便で急増した韓国人観光客

―― マニユアルの徹底でトラブルは徐々に減少

- ▮ 宿泊マナーもずいぶんよくなった
- ▮ 韓国との交流なくして発展なし
- ▮ カレーが一番の人気商品
- ▮ 対馬の経済が潤っているのは事実
- ▮ 観光だけではなく経済交流を
- ▮ 韓国の客をとらないと食えない
- ▮ 韓国語と韓国文化を学べる国際文化交流コース
- ▮ 韓国人が減れば対馬はますます疲弊する
- ▮ 日韓の文化交流に役立ちたい
- ▮ 韓国から近く、自然の豊かさが魅力
- ▮ 対馬の人は昔から韓国人となじみがある
- ▮ 国家安全保障は積極的な国際交流を基盤に

韓国の影が色濃い 国境の島

二年前に対馬を訪ねた時、韓国人観光客の増加とマナーの悪さ、韓国資本による宿泊施設の買収と韓国人専用ホテルの建設など、島に韓国の影が色濃く落ちはじめていることが気になった。

その後それとなく注意していたところ、遊休地の買収(自衛隊基地のすぐ近くも対象)が問題化し、平成二〇年七月には定期航路化を前提にソウルの金浦空港から対馬空港へ漢瑞大学が出資する「漢瑞宇宙航空社」の飛行機が飛来、同

月韓国の退役軍人らが対馬市役所前で「独島は韓国領土・対馬も韓国領土」という横断幕を掲げて抗議活動を強行。

日本人が韓国で「竹島は日本領土・済州島も日本領土、任那みまな(注1)も返せ！」なんて横断幕をかかげて無届デモをしたら、恐らく無事に帰ってくることはできないだろう。さらに、追い打ちをかけるように、八月には九州郵船が一〇月以降ジェットフォイルを二便から一便に減らすことを表明(注2)。大げさにいえば、韓国との結びつきがどんどん深まる一方、日本本土との絆はどんどん細くなっていくばかり。

最新の事情を知りたくて、平成二〇年の一〇月末に変わ

りゆく対馬を訪れた。

対馬へ到着してから知ったのだが、その直前に右翼団体（実際はともかく、島人は皆そう呼んでいた）が街宣活動をしなから韓国観光客を恫喝するという騒動があり、産経新聞で韓国入および韓国資本の進出問題を大きく取り上げ、一部の人はかなり過敏になっている時期だった。

産経新聞の内容について、詳細は直接読んで欲しいが、**【今、何が問題なのか】**対馬が危ない」と題された連載記事（平成二〇年一〇月下旬連載）のタイトルと小見出しだけ並べておこう。これで、記事の意図するところがおおよそ推察できるだろう。

- (1) 韓国 不動産相次ぎ買収、自衛隊基地隣接地も、行幸の碑も「人質」
- (2) 侵食される国の要衝、従業員は島民、チラつく中国の影、強い韓国領土意識
- (3) 島民の3倍 韓国から大挙、地元は潤わない、ガイドも韓国人
- (4) 生き残りへ苦渋の「歓迎」、経済悪化、過疎に拍車、韓国は経済起爆剤、「防人の島新法」
- (5) 韓国はどう思っているのか、「対馬島の日」で対抗、歴史的な緊密さ。

「任那日本府」という「倭国」の出先機関が置かれ、朝鮮支配の軍事拠点だったといわれているが、その存在や実態については諸説ある。

※注2・博多く厳原間には九州郵船の超高速船ジェットフォイル（JF）が一日二往復（うち一便は厳原からさらに比田勝へ）、フェリー（F）が二往復、博多く比田勝間にはF一往復が就航していたが、燃油高騰などにより平成二〇年一〇月からJFを一往復に減便、JFでの日帰りが不可能になった。一月からは比田勝発着のJFも休止状態。平成二一年一月現在、博多く厳原のJF料金は九〇五〇円（うち燃料油価格変動調整金一三五〇円）、F二等は五八〇〇円（同）。所要時間はJF二時間一五分、F四時間四〇分。

歓迎はしないが 受け入れるしかない

島人の
平均的な感覚

島外からさまざまな働きかけがある中で、増大する韓国人観光客に対して、島人はどんな想いを抱いているのか。現地を歩いて、直接語ってもらった。あえて、島人それぞれの想いを羅列してある。全部に目を通すことによって、現在の対馬の雰囲気があるていど汲んでもらえるだろう。

最初に、取材を終えた時の全般的な印象を述べておけば、島人の多くは現状を冷静に受け止め、現実的な対処をしているように感じられた。大歓迎でもないが排斥もせず、うまく付き合っていければそれでいい。そんな感じ。

そして、その根底にあるのは、元軍に占領された時や朝鮮に攻められた時も含め、二千年以上にわたって対馬はいつも対馬であったという揺るぎのない想いだろう。その想

※注1 任那…六世紀、朝鮮半島東南部の伽耶（かや）と呼ばれた諸小国に

いは、歴史に裏打ちされた密かな自信と
言い換えることもできる。

対馬へは夕方遅く入ったので、その晩
は空港近くの宿に泊った。韓国人観光客
は受けていないというその宿で聞いた話
が、彼らと直接接する機会のない島人の
平均的な感覚のように感じたので、最初
に紹介しておこう。

「韓国人？ 増えたね、最近は。対馬の
人口と同じくらいきている」

実際は、対馬の人口どころではなく、
平成一九年は約六万五〇〇〇人で、対馬
の人口（三万六〇〇〇弱。実人口はさら
に少ないという人も多い）の倍近い。平
成二〇年は、それを軽く追い越す勢いだ。

「日本人客は減る一方なので、韓国人を受け入れるしかな
い。大半が素泊まりで、一泊三五〇〇円くらいらしい。入
国と出国は厳原か比田勝だが、宿泊はほとんどが厳原。食
事は、韓国人経営の焼き肉屋へ行ってしまふ。だから、韓
国人の間で金が巡っているだけで、対馬には残らない。夜
も朝も、必ず風呂に入りたがるというし」

「対馬と韓国間の航空路が開設されるといふ話もあります
が」



厳原港ターミナル内、対馬と釜山を結ぶ高速船の搭乗口。

「値段の高い飛行機に乗る人は、
果たしているかね」

「韓国人による宿の買収は多いん
ですか」

「対馬の人間を間に立てて買って
いるから、よく分からない。税金を
ちゃんと払っているのかどうか怪
しいもんだ。韓国人専用の宿もあ
る。公園で弁当を食べて、カスをそ
のまま捨てていくんで汚いんだ」

否定的な話が多くて、歓迎して
いるとは言いがたい。

翌朝、民宿からバス停へ歩いて
行く途中、空き店舗に日本語とハ
ングルで「テナントあります」と記されていたのが、対馬
の現状を象徴しているように感じられた。

一、二泊の観光ツアー、 四〇歳以上の男女、対馬は初めて

韓国人観光客の
実像

対馬での取材に先立って、まず市役所に対馬市観光物産
推進本部副本部長の本石健一郎さん（対馬観光物産協会事
務局長でもある）を訪ね、対馬観光の現状を教えてもらった。

対馬への観光客実数は、平成一一年には二〇万人台に乗

り、平成一五年には三〇万人台へ。今のところ統計は平成一八年までだが、四年間は三四万人前後で推移しているという。ほぼ右肩上がりが増えていたとは、意外だった。

平成一三年と一八年を比べた島への入込客数の変化を、長崎県観光統計から拾うと、五島は七〇万四三三人↓六〇万六九二七人に減少、壱岐も四六万一五五人↓三九万八一七一人へ。一方、対馬は二九万四一四六人↓三二万二三〇四人と、わずかながらも増加している。

韓国人観光客の数字については、入国管理局の項で詳しく触れるが、平成一七年ビザが免除になるとともに韓国と対馬を結ぶ高速船が二隻態勢に強化され、一挙に韓国人観光客が増えたという。

釜山と対馬を結ぶ船の運航状況は、厳原には金・土・月の三便、さらに隔週で木曜日もやってくる。比田勝へは、水・日の週二便、隔週で木曜日にもやってくる。だから、火曜日以外は、毎日釜山からの観光客がやってきていることになる。

高速船を運航している大亜高速海運は「シーフラワー」(SF、定員三七六)と「ドリームフラワー」(DF、定員三〇〇)の二隻態勢で運航している。釜山からの



行儀よく並んで歩く韓国人観光客。こんな光景は珍しいと対馬の人が驚いていた。



韓国資本の土産物店。

所要時間は、比田勝までならDFで一時間二〇分、SFで一時間五〇分。厳原へはDFで二時間二〇分、SFで二時間五〇分。運賃は、片道七〇〇円程度だという。

参考までに記しておけば、東京→伊豆大島はジェットフォイルで一時間四五分、福岡→比田勝はジェットフォイルで三時間五分、フェリーだと五時間五〇分かかる。

さらに、博多→釜山を結んで運航されているジェットフォイルの「ビートル」が、対馬に寄港することもあるという。

「例の大学がやっている航空会社は、国際ライセンスをソウルで取得しているところだそうです。飛行機ならば、ソウルから一時間、釜山からならば一五分。飛行機は二〇人乗りのビーチクラフト機を予定しているようです」

最近の傾向は、原生林が残る山への登山客も増えていること。白嶽しらたけ（標高五一九メートル）は個人やグループ、有明山あかりやま（同五五八メートル）は修学旅行が多いという。

「トレッキングシューズを履いて、船から下りてくる人も見かけるようになりました。修学旅行も、先週二、三校六〇〇人ほどがきていました」

マナーも以前と比べれば、ずいぶん向上したという。

「以前は、土産品店前の車道にはみ出して、クルマがきてもどこうとしなかったり、中心街の川に架かる小さな橋の上で座り込んだり、公園で宴会を開いたり、いろいろと苦情が多かったですが、旅行社やガイドを通じて注意したところ、だいぶ良くなりました」

平成二〇年五月から六月にかけては、韓国人観光客を対象にアンケート調査を行ったという。その結果は、以下の通りだ。

対馬は初めてという人が、約八割。居住地は、釜山が大半かと思っていたら三六%で、ソウルが一%という結果になっていた。約半分はその他で、韓国全土から対馬ツアーに参加しているのか釜山周辺の市町村からの参加者が多

いのかは分かりかねたが、韓国では全国的に対馬が目ざれているとみて間違いなさそう。

男女比はほぼ拮抗しているが、年齢層は五〇代が三三%、六〇歳以上が三〇%、四〇代が一九%と、四〇歳以上で八割以上を占めている。来島の動機としては六割が観光で、それ以外に登山と歴史が一〇%、景観が八%、釣りの四%が続く。登山・歴史・景観は、観光に包括することもできる。ほとんどが観光目的ということだろう。

来島の仕方は、ツアーが五八%、個人が九%、無効が三三%となっている。個人できている人間が、無効な回答をする可能性は、ツアー客より格段に少ないと考えられるので、ツアー客九に対して個人客は一といった割合のようだ。滞在日数は、一泊二日が六三%、二泊三日が二〇%で、さらに無効回答をのぞくと、九割近くが一、二泊ということになる。また、自由時間の過ごし方としては、土産店が最も多く、購入した土産物は菓子、化粧品、海産物の順。買い物に費やした金額は、五〇〇〇〜一万円、五〇〇〇円未満、一〜三万円が二〇%強でほぼ同じ。三万円以上は一四%となっている。対馬にまた来たいかどうかについては、ちょうど三分の二の六六%が「はい」、「いいえ」は二二%、残りは無効回答。

この無効回答がかなり多いアンケートから読み取れるのは、あまり旅慣れない人が、値段も手ごろで、時間もかか

らない外国へ、ちょっと旅してみよう、そんな軽いノリで来ているのではないかとということだ。

観光情報を提供、 買い物も手伝う

韓国語支援センター

対馬市交流センターに入っているショッピングセンターティアラに小さなブースがあり、そこに商工会事業として韓国語支援センターが開設されている。役割は韓国人観光客の相談所だが、具体的にはどんなことをしているのか。担当の赤木亜未さんに聞いた。

「主に、買い物の手伝いです。この商品はどんなものなのか、詳しく知りたがりますね。五歳用の服で、男の子用かどうかとか。どこの国で製造されたかとか。自分で調べずに、すぐ聞く人が多い。それから、中国製のものを、すぐく嫌う傾向があります」

無理な注文も多いようだが、言われたことはできるだけ頑張るようにしているという。

「値切ってくれ、交渉してくれって言われることも多いです。ここは日本なのでまけないですよと言っても、韓国ではまけてくれるので、日本でもまけなさい、なんて。返品する人も多いです。当日のレシートがあれば、大体返品を受けてくれますが。修学旅行で来た高校生が、他に欲しいものがあつたけれどお金がないので返品したい、なんてこ



ショッピングセンター内にある
韓国語支援センター。

ともありました。小銭を嫌う人も多いですね。重たいから厭だつて」

韓国人観光客は圧倒的に団体が多く、九割以上に達するだろうとのこと。

「団体さんはコースが決まっていますが、個人だどこを観光したらいいか、どうやってレンタカーを借りればいいのか、寿司や刺身の美味しい店、などを聞かれることもあります。カードを使える店が少なく、キャッシングもできないという苦情もありますね」

韓国人が対馬にくる三大目的は、観光、釣り、登山ですが、最近はやりたいことを楽しむ人も増えてい

るといふ。

赤木さんは対馬の豊玉高校から、釜山の釜慶大学に進学したが、現在は一年間の休学中だ。

「高校一年の時に釜慶大学と交流会があり、韓国に興味を持つようになりました。対馬なら韓国語ができれば、就職に役立つだろうと留学を決意したんです。釜慶大学は大きいのでいろいろなことが学べるだろうと思っただし、若いうちに少し冒険をしたい気持ちもありました。両親は最初反対しましたが、今は支援してくれています」

なかなか積極的な赤木さんが、休学の理由も前向きだった。

「できたら韓国で就職したいと思っっているんですが、その前に対馬の現状や日本社会を、しっかりと見ておきたかったです。実社会に出る前に、もつと経験を積んでおきたかったです。韓国では、休学はごく普通で珍しくありません。特に、男性は徴兵制度があるので、在学中に済ませておく人が多いから」

三年の後期だった平成二〇年一月から、二一年三月まで休学の予定だ。

「支援センターでは、九月から働いています」

センターに詰めていない時は、万関橋に近い土産品店で通訳兼売り子として働いているという。

「特に土日は韓国人が多くて、圧倒されます。バスが二、



市役所の二宮照幸さんと話す韓国語支援センターの赤木亜未さん（左）。

お酒やシイタケにも興味を示す人が多いですね。なにかお勧めをと言われたら、対馬のお菓子『かすまき』や藻塩などを勧めています」

一〇月末時点でもウォン安で、土産品店の売り上げに影響が出つつあると言っていたので、さらに急激に進んだ為替変動は、大きな打撃となっているかもしれない。

日本人こそ対馬の 素晴らしさを知ってほしい

昔から、比較的韓国人観光客との交流が多かったという

ある島人の
言葉

三〇台入ることもあって。アワビの人气が高いですね。韓国のアワビは小さい上に、養殖物が多い。でも、対馬のアワビは大きくて、その上韓国よりも安いと大人気です。発泡スチロールの箱を何段も重ねて、一度に七キロ買っていった人もいました。エイヒレも人気です。それから対馬の

島人によると、

「うちへは、昔からけっこう韓国のお客さんがきてくださっていたんですよ。迷惑なんてとんでもない。ありがたいと思っけています。富裕層の方が多く、マナーも心得ているので、何の問題もありません。文化の違いはお互いに受け入れ、理解し合わなくてはならないと思います。相手の文化や食事の作法を知った上で、対馬ではこうだという決まりをきちんとしておくべきですね」

例えば、日本の場合脱いだ靴は爪先を外側に向けて並べますが、韓国では大変失礼な意思表示なのだという。

「さっさと帰ってくださいますか、置いたまま食べるかなどは、典型的な違いだろう。」

「先日、右翼みたいな人たちが対馬へやってきて、一般の韓国人観光客に詰め寄り、お前ら帰らんか



ハングル表記しかない店。

い、などと罵声を浴びせていたんですよ。突然島外からやってきて、それはないでしょう。この国際時代に、何人から悪いというような物言いはおかしいでしょう。たいした努力もしていないのに、これだけ韓国のお客さんがきて下さるんですよ。対馬の重要性は、韓国の方がよく知っています。そして、対馬人に対しては好意的なんです。特に、釜山では。韓国と日本の間で、対馬が果たしてきた役割を知っているからでしょうね」

日本本土の人こそ、もっと対馬の素晴らしさを知って欲しいと、強調した。

「一〇年前は、大半の対馬人が韓国人観光客に対して否定的でした。偏見が強かったんです。行儀が悪いと嫌うところもあるけれど、最近は歓迎しているも店も多いですよ。お客さんがなにを望んでいるか察するのも、接客業の仕事だと思っています」

ビザ免除、船の増便で 急増した韓国人観光客

福岡入管対馬出張所

対馬への出入国を管理している法務省福岡入国管理局対馬出張所に、韓国人観光客が激増しているこの状況をどう見ているのか聞いたのだが、一出張所とはいえ発言はすべて法務省の見解になるからと断られた。彼らの立場からすれば、仕方のない対応だろうと思っけていたところ、

数字の提供だけでよければと、訪問を受け入れてくれた。

渡された資料によると、平成一二年から一六年までの厳原港の韓国入国者数は、六〇九〇〇程度で推移しているが、平成一七年は二万三〇一二（韓国人以外の外国人は一一人だけ）と跳ね上がっている。同年の、比田勝港の韓国人入国者数は一万三七五六人。

平成一七年度の法務省統計「主な海港別外国人出入国者数」をみると、前年まで四位だった長崎を抜き、僅差ながら厳原が四位に躍進している。外国人の出入国という観点からすると、厳原は博多、下関、大阪に次ぐ日本で四番目の港ということになる。そして、もしかしたら比田勝は、全国第六位なのかもしれない。

「春にビザが免除になり、船が二隻態勢になった年です」と、所長の宮城元作さん。

その後、対馬二港の韓国入国者数は平成二〇年秋までは右肩上がりに増え続けた。平成一七年、三万六七六八人（対馬の全人口とほぼ同じ）、一八年四万二四六七人、一九年六万五七五〇、そして、平成二〇年は七月までに四万六一二一人（この数字のみ全外国人だが、九九%以上が韓国人）と推移している。この時までの勢いが維持されていたら、九万人に届くのではないかという話もあったが、その後急激なウオン安で減速したという。

少ない管理官で多くの出入国者を扱わなくてはならず、



厳原港国際ターミナル（右）と厳原港ターミナルビル。

手続き終了まで一、二時間かかることが多く、また待機スペースも手狭なため待ちくたびれた観光客が座り込んでいることもあると聞いていたので、数字だけという約束だったが、一応管理官を増やす計画はないのかたずねてみた。「与えられた現状で肅々と職務を遂行するだけです、としか言えないんですよ」と、かわされてしまった。

マニユアルの徹底で トラブルは徐々に減少

ホテル対馬の
岡村さん

社長の方針で早くから韓国人観光客を積極的に受け入れてきたホテル対馬で、マネージャーの岡村洋希さんに実態を聞いた。

「八年前から、受け入れるようになりました。でも、最初は大変でした。廊下で宴会をしたり、間違えて他人の部屋に入ったり、枕や浴衣、ポットまで持ち帰る人もいました」しかし、「トイレの落とし紙は、ゴミ箱に捨てずに水で流す」など、注意して欲しいことをまとめたマニユアルを作り、旅行社とガイドに渡して徹底したところ、トラブルは徐々に減っていったという。

「韓国人の割合は、六、七割といったところです。日本人のお客さんが減っていく中で、ありがたいお客さんですよ。一泊朝食付きが基本で、二人でツインを利用した場合一人

四八〇〇円。夕食付だと、五八〇〇円です。でも、うちで夕食をとってくれるお客さんは、少ないですね」

バスは一日契約なので、六時半くらいに朝食をとって、夜の七時くらいまで徹底的に利用する。場合によっては、外で食事をして一〇時過ぎにバスで戻ってくることもあるという。

「うちには韓国語ができる人がおらず、ガイドまかせです。ガイドは、かなり日本語が堪能ですよ。そこで、公民館のハンゲル講座に参加して、習おうかと思っています」

韓国の高校生が修学旅行で対馬にくることもあり分宿となるが、受け入れを断っている宿は今では二、三だけだという。

「九月は、韓国のお盆で客足が落ちましたが、一〇月はよかったです。ただ、ウォン安で支払いが滞っていると

さいとう じゅん 齋藤 潤

昭和29年岩手県盛岡市生まれ。島、旅、食、船、自然、環境、産業史、農林水産業をテーマに執筆をしている、フリーライター。本誌の他に、「コーラルウェイ」(JTA)、「サライ」(小学館)、「ノジュール」(大人の遠足) (JTBパブリッシング)、「島へ。」(海風舎)、「エスクァイア」(日刊ゲンダイ)などに執筆。著書は『日本《島旅》紀行』『沖繩・奄美《島旅》紀行』『旬の魚を食べ歩く』『東京の島』『吐噏喇列島』(光文社新書)、共著に『沖繩いろいろ事典』(新潮社)、『島・日本編』(講談社)などがある。平成20年度国土交通省「島の宝 100景」選定委員。

が多く、それが心配です。一円が二三ウォンになったら払うから、まってくれとか……」

——宿泊マナーも ずいぶんよくなった

丸屋ホテル社長の
江口さん

取材中に宿泊した丸屋ホテルの社長江口栄さんにも、話を聞いてみた。

「うちは三〇年くらい前から、韓国人を泊めていました。JTBなどから送り込まれてきて。生活習慣の違いか、あの頃はマナーが悪かった。当時は、国内の公共事業関係のお客さんが多くて、なかには韓国人を泊めるなら、うちは来んよーなんて人もいて、泊めなくなってしまうました」

そんな丸屋ホテルだったが、最近になって再び泊めるようになって



若い客の
韓国と
違った。
珍しい
韓国
団体

た。他人の刺身まで食べてしまい、数が足りなくなったなどということはあっても、大きなトラブルは起きていないという。

「マナーはずいぶんよくなりましたよ。韓国人が増えてくるからと言って、別に侵略されているなんて感じていません。高校の修学旅行も受けましたが、国際交流という意味合いでやっています。韓国人を泊めるようになってから、まだ一年足らずですが経営の支えにはなっています」

江口さんと一緒に何人かの人と話す機会があったが、なかには自分は韓国人に育てられた感覚があるという人もいた。

「うちは旅館をやっていたんですが、宿は母が仕切り、父は山仕事をしていた。建材を伐採して、韓国に出していったんですよ。朝鮮戦争後の復興の頃は、父も母も忙しくて、伐採のために雇われた韓国人労働者にかわいがられて育ったようなものです。父も母も、差別意識は持っていませんたように思う。昔から、ずっと韓国人を泊めていましたから」

五〇歳代の人からは、

「どのクラスにも、韓国人の同級生が二、三人はいた。もつといたこともあった。からかったりしたことはあっても、苛めたりはしなかったな。ふつうに、共存していたといえ
ばいいかな」

韓国との 交流なくして発展なし

対馬歴史民俗資料館長の
阿比留さん

韓国人観光客の来訪が多いという長崎県立対馬歴史民俗資料館館長の阿比留徳生さんに、彼らの動向とどんな展示に興味を示すのかたずねた。

「韓国人の入館者は多いですよ。全入館者四万六一一九人のうち、外国人が三万三八〇〇人で、その大半が韓国人です。平成一五年の入館者は、二万一六八人中一万二〇三人だったので、ものすごい増え方です。館内の案内は、ガイドがやっているので細かな様子は分かりませんが、告身こてみ（朝鮮国の官職任命書）の前では、大きな声をあげますね。ただ、入館無料の施設なので、トイレ休憩代わりのような人もいますが。事実、すぐ隣の厳原資料館へ行く韓国人はほとんどいませんよ。多分、有料だからでしょう」

その言葉を裏付けるような話を、万松院ばんしょういん（対馬藩主だった宗家そうけ一門の菩提寺）でも聞いた。韓国語で入館料の表示があったので、どのくらい来るのか聞いてみると、ほとんど来ないという。前まで来ても、有料と分かるとさっさと引き上げるらしい。

「元来ここは、宗家文庫史料（対馬藩の藩政史料）などを保存活用するためにつくられた施設なので、研究者にもっと活用して欲しいのですが……。二〇年前は一三〇〇人くら



水なうてと桃とうての井なうて半井なうてからすい

いの研究者が利用していますが、昨年は六三三人です。それでも、宗家文書の原典を読み解こうとしている韓国人研究者は増えています」

韓国にも、三万点近い宗家文書があるのだという。

「最近いろいろ（韓国の退役軍人が対馬でデモをしたり、日本の街宣活動家が乗り込んできたり）ありますが、今は過渡期であります。対馬はこれから成熟した観光になっていくと思います。対馬は日本の領土であり続けてきたし、もう少し冷静になって考えれば、対馬は韓国との交流なくして発展はありません。滞ると腐るだけです。行き違いが起きるのは、主に生活習慣の違いからです。お互いに違いを理解し合わないといけない」

カレールーが 一番の人気商品

厳原の
スーパーマーケット

韓国人観光客もよく立ち寄るといいう、厳原の中心地にあ

り港からも遠くないスーパーマーケット「レッドキャベツ」の長崎地区営業係長の岩下亮介さんに、彼らの動向を聞いた。「釜山からくる船の関係でしょうが、韓国人のお客さんは週末が多いですね。多い日は一日一〇〇〜二〇〇人くらいだと思います」

どんな商品が人気なのかと思ったら、スーパーということもあり、チューブ入りのワサビや寿司、刺身、果物など、意外に身近なもので、食品が中心だという。ワサビはともかく、他のものはお土産と

いうより、ちよつと買いい食いたいことらしい。そんな中で一番人気は、カレールー（カレールー粉はイギリス人の発明だが、ルーは日本人の発明品だという。韓国にもあるのだが、なぜか日本製が美味しいという評価を受けているらしい。「お客さんがどの銘柄を選ぶかは、ガイドの勧め方次第のようです」

団体でやってきて、数人単位のグループで行動するケースが多い。

「特に問題はありませんが、日本人の感覚でみると、驚かされることも多いです。支払いを済ませる前に、お菓子を食べてしまい、空き袋をレジで見せて清算するとか。見つ



スーパーの店内表示。

けて注意すると、すぐにやめますが。それから、買った商品をレジ袋に詰める荷物カウンターで食べだす人も多い。これも、注意すればすぐ聞くんですけれど」

習慣の違いなのだろうが、確かに日本人の感覚ではギョツとするだろう。その辺の感覚の違いが分かっているから、岩下さんは地元の人と同じお客として見ているという。

「あとは、セラミックのナイフがどこで売っているかよく聞かれますね。うちでは、扱っていませんが、韓国人がやっている土産店ではかなり人気が高いようです」

レッドキャベツに続いて、セラミックのナイフを売っているという、大分に本社がある韓国資本の日本観光公社対

馬店を訪ねた。店長の李眞皓（イ・ジョン）さんにインタビューを申し込んだが、自分の一存では答えられないとのこと。対応は丁寧だったが、一部の反韓的な動向に神経質になっているようだった。

対馬の経済が 潤っているのは事実

対馬新聞編集長の
多田さん

長い歴史を誇る地元紙の対馬新聞社を、市役所の梅野菊次さんの同行で訪ねた。地元報道機関として、韓国人観光客の増加と島外の人間による街宣活動をどう感じているか聞いてみたかったのだ。

「よく来るんですよ、週刊誌の取材記者とか。でも、すべてコメントはお断りしています。ちょこちょこつときて、自分たちに都合のいい話だけ聞きかじって記事を書く。そういうのが、あまりに多過ぎる。だから、言っているんです。一週間でも二週間でも気が済むまで滞在して、自分たちの足で歩き納得できるまで取材して、感じたことをそのまま書いてください。それが一番いいでしょうって。でも梅野さんと一緒だから、少しだけ感じていることを話しておきましょう」

編集長の多田小夜子さんの言は、至極もつともなことで、取材の基本中の基本だ。

昔から付き合ひのある梅野さんを信頼して、同行しても

らった筆者にも重い口を少しだけ開いてくれた。

「韓国人がきて、対馬が潤っているのは、紛れもない事実です。韓国の旧盆の時はお客が減って、対馬の経済が少し低下したほどです。何年続くかは分からないけれど、事実として潤っています。だから、韓国人が増えて困っているのは、ごく一部の人でしょう。それを、大げさに書き立てている。対馬全体をまったく見ていないとしか、いいようがありません。密漁に関しても、この四、五年海保の検挙数は激減しています」

街宣活動にきた人々から呼び出されて集会を取材に行った時、あまりにも上から目線でものを言うので腹が立つて仕方なかったという。

——対馬の人は危機感がなさ過ぎる。韓国人のマナーが悪いのは、対馬の人が注意しないせいだ。対馬島民は無責任だ。これだけ観光資源に恵まれているのに本土からの観光客が減っているのは、行政の怠慢と韓国人を受け入れているせいだ、などなど。

そして、なぜか対馬の生きる道は、核燃料最終処分場を受け入れるしかない、繰り返し強調していたという。

観光だけではなく 経済交流を

対馬観光物産協会会長の
庄野さん

対馬観光物産協会会長の庄野伸十郎さんは、朝鮮通信使

行列振興会の二代目会長を一五年の長きにわたって務めたという。毎年八月に行われている厳原港まつり対馬アリラ祭の目玉が、朝鮮通信使(注3)行列だ。

「昭和五年、父(庄野晃三朗さん)が辛基秀先生の『江戸時代の朝鮮通信使』という映画を見たのが、きっかけでした。父は、対馬にこんな素晴らしい歴史があったのかと感激して、港まつりで行列を再現すれば観光客誘致にも結びつくのではないかと、港まつりの出し物としてはじめてのです。朝鮮通信使行列振興会ができて、父が初代の会長に就いた。当時は、島の人でも朝鮮通信使のことをほとんど知りませんでした」

大阪から夜逃げ同然でやってきて、対馬で事業を成功させていた晃三朗さんは、常に対馬の人たちのおかげで今日があるという口にし、島のために尽くそうとしていたという。祭り好きだった晃三朗さんは、それまでもイベントを企画したり、従業員をひきいて祭りに参加したりと飛びまわっていて、今度は朝鮮通信使行列(当時は、韓国に配慮して李朝通信使と銘打っていた)だった。

「韓国まで飛んで行って、すべて個人負担で韓服を100着買ってきました。福岡の韓国総領事や韓国キャバレーのホステス、さらに釜山の観光協会にまで出演を依頼してまったく、またかよと思いました」

伸十郎さんは、一人で突っ走る父の熱中ぶりを苦々しく

見ていたが、昭和六〇年四月に会長が突然亡くなってしまふ。朝鮮通信使行列をはじめて五年、ちょうど日韓のマスコミからも注目されはじめた時期だった。二代目会長の座が、それまで行列とほとんど関わっていなかった、というより批判的に見ていた伸十郎さんのもとへ回ってきた。「町長からなんとか二年だけ、と口説かれて引き受けたはずが……。その後歴史を勉強すると、対馬は韓国との交流で成り立っていたことが分かってきた。途中からは、対馬の魅力を知らしめたいと、意地になってやっていました」

庄野さんが、日韓そして対馬と韓国の交流にかける想いは熱い。

「もっとお互いに本当の歴史を知る必要がある。真実の歴史は一つだけのはず。竹島問題も早期決着を図るべきです。江戸時代に、軋轢を乗り越えたのはすごいことだと思ふ。交流を絶やしてはいけないという強い想いが、支えてきたのでしょ」

現状をどうとらえ、今後どうすべきかをたずねたところ、「観光だけではなく、経済交流にまで広がっていかないと長続きしないでしょう。観光客急増には、まったく対応できていない。船も相手頼みだし、対馬側も韓国人誘致の努力をする必要がある。また、木材や水産資源など、対馬にあつて韓国にないものを売っていかないといけない。現地調査をして韓国人の欲しがるものを開発し提供しなくては。



巖原の町中にある「朝鮮国通信使之碑」。

状況がいい時に着手しておかないと。このところのウォン安が気がかりですが……」

※注3 朝鮮通信使…室町時代から江戸時代にかけて、朝鮮国王が日本の幕府に通好や慶祝のために遣わした国使。計一七回来日。江戸時代には対馬藩が朝鮮と江戸幕府の仲介役、随行役を果たし、四、五〇〇人にもおよぶ通信使の一行は対馬をはじめ吉岐、相島（福岡）、下蒲刈島（広島）などの島々も経て江戸へ至り、道中では日本側の学者や文人などと交歓が行われた。

韓国の客をとらないと

食えない

民宿経営の
神宮さん

民宿「つりの家」の神宮安實さんと貞子さんが、宿をはじ

めたのは昭和四九年だった。現在名物となっている「いり焼き」は、雞知けいちの人にならって昭和五〇年からはじめたという。

「韓国人は、『あおしお』（比田勝）釜山間にかつて就航していた不定期船）の時代から泊めよったですよ。日韓交流チヌ釣り大会があった時に、当時の美津島町から頼まれて受けたとです。最初に韓国人を呼び込んだのは行政やけねその頃、クロ（メジナ）は釣らなかつたですたい。後になつてから、クロがはやるようになつちやき」

最初は、習慣の違いが分からないため苦労が多かつたという。

「韓国人はよく食べるし、つまみを下さいというし。サービスをしていたらきりがいやけ、会席なら何品、いり焼なら何品と、品数を決めよったですよ。韓国人は食べた後が汚い。何回言つても駄目。慣れたというか諦めたというか、もう言わんごとなつたですよ。ただ、細かいことをあまり言わんので、日本人よりやりやすい面もあるですよ」

昔は、ゴルフ客が多かつたが、最近では二泊三日の釣り客が中心だ。宿泊だけでなく、渡船の需要もあるので、ありがたいお客だという。登山客も増えつつあるが、一泊二食だけなのでうまみは少ない。お客の比率は、韓国人一〇に対して、日本人は一ていど。

「韓国の客をとらんと、食われんごとなつてきたとです」

最近、釣り人による過度な撒き餌が問題化しているが、

「雇われ船長は、強いことが言えますよ。その点、自営は強いやけ。はつきり言えば、やめるっちゃ」

神宮さんは、釣り客を連れてくるガイドに、対馬で釣りをしたければ、地元のルールを守れと強くない続け、最近はかなり徹底できている。また、最低でも、クーラーボックス、竿のバッグ、衣類と三つの大荷物をもってくる釣り客に対応するため、三四人乗りのバスを二九人定員に改造して、収納スペースを増やしたという。



民宿「つりの家」を経営する神宮さん夫妻。

神宮さんは、明確で強い主張と寛容（諦め）を使い分けながら、うまく韓国人とつきあっているようだった。

韓国語と韓国文化を学べる 国際文化交流コース

県立対馬高校

厳原の長崎県立対馬高校には、国境の島らしい国際文化交流コースがあると聞いて、主任の教諭重松真知子さんに、具体的にどんな授業が行われているのか教えてもらった。

「対馬高校には普通科と商業科がありますが、国際文化交流コースは、普通科の中に平成一五年に開設されました。全国の公立高校で唯一、韓国語と文化を専門的に学ぶことができるコースです。一期生は特にブライドが高かったですね。これまでの三年間で、四六人の卒業生を送り出しました」

一年生の時は一日一時間は韓国語か韓国文化の授業があり、二年生になると週七時間が増えて韓国語と歴史について勉強し、三年生はさらに韓国漬けで一日最低二時間は韓国語や文化について学ぶ。韓国語講座は、韓国人と日本人一名ずつが担当しているという。

また、実地研修も大切にしている、一年

生は二泊三日で韓国研修旅行へ。二、三年生になると、六泊七日の韓国語学研修も行われる。さらに、韓国に関する専門家の出張講義やハングル能力検定試験、スピーチコンクールなども催される。

「出張講座は、テコンドーの先生や先輩留学生の話なのですが、最近ではハングル書道の人気が高かったですね」

卒業後は、本場韓国の大学へ進学する生徒もいるという。「国立釜慶大学、韓国海洋大学、亜東大学、釜山外国語大学などへの推薦制度もあって、一二人の先輩たちが学んでいます」

平成二〇年一〇月現在の在校生は、一年生が一七人、二年生が九人、三年生が六人となっている（定員は、一学年二〇人）。島外から進学してきた生徒も九人いて、うち五人は長崎県外の福岡、奈良、兵庫などからきているという。



韓国語や文化を学ぶコースがある県立対馬高校。

他でも語学関係の学科ではよくみられる傾向だが、男女の内訳は、女子が二四、男子が八で、圧倒的に女子が多い。

「生徒がこのコースを選ぶ理由はいろいろで、韓国のアイドルが好きだったからという子もいれば、日韓の懸け橋になる仕事がしたいという子もいる。具体的には、通訳や自分で企画提案できるガイド、貿易関係の仕事などです。就職に結び付けられたらいいなくらいの子もいますが、たまたま韓国人がすぐく増えたので、もつと勉強しなくてはと刺激になってるようです」

同行してくれた市役所の二宮照幸さんによれば、「日韓の交流に際しても韓国の高校生は積極的だが、コリスの生徒たちも積極的ですよ」

日韓の関係がますます密になっていかざるをえない時代、国際文化交流コースの生徒たちがどんな活躍をしてくれるのか楽しみだ。

韓国人が減れば 対馬はますます疲弊する

エアートラベルつしまの
永留さん

「エアートラベルつしま」のマネージャーで対馬の韓国人観光客黎明期を知っている永留晃さんの話は、なかなか興味深いものだった。

「釜山で最初に対馬観光を開発したのは、亞洲観光でした。ただ、以前の通貨危機で駄目になってしまった。当時、対

馬で降りる人が二、三〇人集まれば、ビートル（高速船）が寄港してくれていた。主に、アリラン祭の時が中心でしたが。当時の対馬観光は、結構高かったと思います。ベスト電機とか太平洋真珠での買い物に人気がありました。お客さんは明らかな富裕層が中心で、年間で四、五〇〇人くらいだったかな」

当時、会席料理を出す就先にきた人が他の人の皿にまで箸をつけてしまうのに困って、鍋や石焼き料理に変えたところ、鍋は好きなものばかり食べてしまうので困ったという。

対馬から韓国へという人の流れは、どうなのだろうか。

「こちらから韓国へ行く人は、定期航路が開設された平成一二年から二、三年は多かったですよ。建設会社の慰安旅行などでも、釜山へ行っていました。しかし、対馬の中で韓国へ行きそうな人は、もう行った感じ。釜山での楽しみといえば、食べるものか買い物ぐらいだし。なにしろ、釜山の人口は対馬の一〇〇倍ですから」

定期航路は釜山発着が基本。朝に向こうを発って夕方帰着するという、韓国からの観光客に都合の良い運航スケジュールになっていたので、対馬から行く人は夕方到着して朝に戻ってくるようになり、行きづらい面もあるという。

「地元の人より転勤族（公務員など）の方が、韓国旅行は熱心かもしれない」

韓国人観光客が増えた一番の要因として、ビザが免除になったことを挙げた。

「日本人の観光客が減って立ち行かなくなった宿を韓国人に売るな！ という人たちは、そんなことを言うんだって自分たちで買ってやって欲しい。別に、韓国人に売りたいって売っているわけではないんだから。日本人だってパブルの時に、ハワイやニューヨークで向こうの建物をさんざん買い漁ったじゃないですか」

エアートラベルつしま自体は、韓国人観光客と接点はないが、それでも永留さんは韓国人観光客が対馬経済の底支えに少なからず役立っているとみている。

「韓国人が減れば、対馬の宿もバスも大変。島で食事をしてくれば、食材は売れる。島に残ってなんとか食べていこうとすれば、韓国人はありがたいですよ。韓国人が減れば、対馬はますます疲弊してしまう。だから、ウオン安が気がかりです」

向うの旅行社と直取引している宿の売掛金の回収にも、ウオン安が悪い影響を与えるのではないかと、永留さんは心配そうな表情を見せた。

日韓の

文化交流に役立ちたい

国際交流員の
成さん

対馬市観光商工部観光交流課に所属する国際交流員の成

修眞（ソ・スジン）さんも、国際交流について生き生きと語ってくれた。

対馬へは国のジェット・プログラム（外国語青年招致事業）で派遣されてきたという。

「小さい頃から、国際交流の仕事に携わりたいと思っていました」

釜山郊外のリゾート地・海雲台近くに住んでいたスジン

さんは、中学時代から外国人に興味を持ってよく話しかける、とても積極的な女の子だったという。

「その日習った言葉を使ってみたくて、話しかけていました。アメリカ人が多かったです。今考えてみると確かに困っただろうと思いますが、お年寄りをつかまえて、あなたは大きくなったら何になりたいですか、なんて質問したこともありました」

異文化交流が楽しく、他の人にも楽しい経験してもらえようにと外国語高校に進学する。選択肢は、日、英、仏、中、独の五ヶ国語だったが、英語を学びながらも第二外国語も本格的に学びたいと、一番近い国の言葉である

日本語を選んだ。

その後、名門釜山大学の日語日文学科で学んでいる時に、交換留学生で大阪に滞在したこともあるという。

「その頃は、京都によく行っていたし、沖縄の海が印象的でした」

ずっと大都市で暮らしてきたスジンさんの目に、対馬はどう映ったのだろうか。

「対馬は自然がいっぱいで、釜山とはまったく違いました。空気もきれいだし、緑もきれいでした。そして、純粹で優しい人が多い。最初は自然に惹かれましたが、そのうち人に惹かれるようになりました」

しかし、カルチャーショックがなかったわけではない。

「対馬での出勤初日にショックだったのは、電気を消した部屋の中で昼ごはんを一人一人食べている姿でした。韓国では、昼時間は人脈を広げるチャンスだと大切にしていました。弁当の時は、おかずを交換し合ったり楽しく賑やかに食べるものだと思っていただけに」



ハンゲル講座を取材中の韓国テレビ局と講師のソ・スジンさん。

今では、職場にすっかり溶け込み、持前の積極性を活かして日々仕事に励んでいる。

国際交流員であるスジンさんの仕事は、市民向けのハングル講座を開催したり、韓国絡みのイベント（アリラン祭など）を手伝ったり、韓国語の通訳や翻訳など。一応の雇用期間は三年間だが、一年刻みで最大五年まで延長できるという。

そばで一緒に話を聞いていた梅野さんが、「市民向けのハングル講座は、大人気です。韓流ドラマから入った人が多いようです。スジンさんは来春で三年目が終わりますが、もう一年延期になる予定です」

日韓両国の文化や習慣の違いを分かりやすく書いた本や、どうやったら韓国語が楽しく学べ早く覚えられるかをまとめた本を作りたいというのが、スジンさんの夢だという。

韓国のテレビ局がスジンさんのハングル講座を取材にくと聞いて、実は前の晩に飛び入りで講座に参加させてもらっていたのだが、分かりやすくユーモアを交えた講義は好感がもてたし、聴講生も楽しそう。彼女ならば、きつと役に立つ本を作ってくれるだろう。

韓国から近く、 自然の豊かさが魅力

対馬大亜ホテル支配人の

尹さん

釜山（対馬（厳原・比田勝）間に、高速船を就航させて



高台に
大亜
対馬
ホテル
の
建
つ
海
辺

いる大亜高速海運と同じグループに属する対馬大亜ホテルが、厳原郊外の東海岸に面した高台に建っている。眺望はすばらしいのだが、日本人観光客がこの辺まで足を伸ばすことは、ほとんどないだろう。絶景を眺めながらホテルのテラスで、支配人の尹在賢（ユン・チェヒョン）さんに話を聞いた。市役所の梅野さんによると、このホテル自体、対馬市が誘致したものだという。

「対馬にきて三ヶ月くらいで、まだあまり歩いていないので対馬のことは、実はよく分からないです」

夜勤明けの疲れが見える尹さんだったが、そう前置きしながらもこちらの質問には丁寧に応えてくれた。

「ガイドに聞いたところで、対馬にくるお客さんの多くは初めての海外旅行のようです。あるいは、いろいろ海外旅行をして最後に対馬という人もいます。さすが旅慣れていないか、旅慣れているか」

尹さんの言うとおりで、

恐らく初めての海外旅行という人が、大半だろう。それまでさまざまな人から聞いた韓国人観光客に対する悪評は、三、四〇年前に農協さん（農協観光に引き連れられた旅慣れない、外国のマナーも知らない観光客のこと）たちが、欧米で文化の違いによるさまざまなトラブルを引き起こしていた時代と重なって見える。

「お客さんは、対馬のどんな点が印象に残っているようですか」

「自然がよく残っている点が、魅力的だという人が多いです」

スジンさんが対馬に抱いた印象と同じだった。対馬の山々を毛がふさふさと表現すれば、韓国の山々は毛がすっかり薄くなっている状態だ。

「韓国から一番近い外国、というのも魅力だと思います。釜山から五〇キロしか離れていませんから。そして、日本本土より安く来ることができる。釜山の免税店で、ブランド物を安く買えるというので、わざわざ対馬観光に参加している人もいます」

これは意外な参加理由だったが、お目当てのブランド物が港の免税店（空港に比べると格段に貧弱らしい）で買え、そのついでに海外旅行もできるなら、それもアリだろう。

「個人客はごく一部で、お客さんはほとんど団体です。一般募集のパッケージツアーと、多いのが同窓会の旅行です。

リピーターは、たまに個人でいるくらいです」

これも、同窓会では意外だった。

「街のホテルからは、大亜は景気がいいだろうと思われるようですが、価格競争が激しくて現状維持で精一杯です。ホテルだけでは、もうありません。お客さんの九割以上は韓国人です。韓国人だから安くしてくれ、よくしてくれって言われ大変です。団体料金は、朝食付きで週末は五〇〇〇円、平日は四五〇〇円です。従業員は、韓国人より日本人の方が多いし、給料が一番高いのは私ではなく日本人です」

部屋数は二七室で、定員は六二名。なかなか宿で夕食を食べてくれないと嘆いた。

「嬉しかったのは、韓国と日本で国際結婚した家族が、お互いの両親と子どもを連れて泊ってくれたことです。最初から分かっていたら、もっとサービスできるんですが。それから、大亜グループのイメージを損なわないよう、できるだけ対馬に溶け込む努力をしているつもりです」

韓国人から時々日本人と間違えられるという風貌の尹さんは、物静かに語ってくれた。

対馬の人は昔から

韓国人となじみがある

老舗菓子店主の

江崎さん

十数年前から韓国人大学生のホームステイを受け入れて

いる、元祖かすまきの店・江崎泰平堂の江崎泰平さんは、韓国人がここまで増えるとは思わなかったと、驚きを隠さない。

「厳原へ馬山にも船が就航したことがあったのですが、何回かで終わってしまった。今度の航路も、一ヶ月くらいで終わるだろうと思っていたのに、意外でした。帰る前に厳原の街を散歩している途中で立ち寄り、かすまきをよく買ってくれましたが、最近では比田勝から帰る人たちも増えて、売上げは昔ほどではないですね。街の中をグループで歩いている人は、ほとんど韓国人観光客です。日本人団体客は、珍しいですよ」

対馬ハッピーステイの会という受け入れ組織があり、一〇家庭ほどが参加している。

「そう、初めはずいぶん戸惑うことも多かったですよ。そっぽを向くし（目上の人に敬意を払って直視しない）、茶碗は持たずにご飯を食べるし」

と、江崎さんと同じくホームステイを受け入れている、梅野さんが言った。

「しかし、ホームステイで相互理解も深まるし、対馬ファンを増やすこともできる。韓国人と知り合ったのは、ヨットで対馬に寄った人が最初でした。釣りをしているので、船も海も大好きで。ヨット乗りは富裕層が多いんです。英仏など数ヶ国の人が乗り合わせていて、オーナーの奥さん



まきの江崎
かすまき
老舗・江崎
泰平堂。

間だとか。

「韓国語なら、少しはできますよ。対馬の人は、昔から韓国人とはなじみがありました。炭焼きは、大半が韓国人の人でした。金持ちはヤンバン（両班。支配階級のこと）といっていたし、チング（友達）やチョンガー（独身）など、韓国語の単語をふつうに使っていました」

韓国語表示のある江崎さんの店にも、右翼らしき人々がやってきたという。

に着物を着せてあげたり、他の人とも一緒に酒を飲んだり。韓国へは四、五〇回は行っているかな。釜山へは、ヨットで行ったことも四回あります。時化で四〇度くらい傾いたまま行ったこともある」

海況がよければ、釜山までヨットで九、一〇時間だが、悪ければ一三時間くらいかかるといいます。ちなみに、済州島までは福岡とほぼ同じで二四時

「二組きました。旅行者に、罵詈雑言を浴びせて。最初は、二〇人くらいだったかな。二回目は、数人。島民に対して、さんざん失礼な言い方をして帰っていきました。国策の『ようこそ日本』で観光客を増やそうという時に、本当に失礼な人たちです。韓国人も、昔に比べたら格段にマナーがよくなりました」

国家安全保障は 積極的な国際交流を基盤に

対馬を取材したのは一〇月下旬だったが、それから二ヶ月ほどでウォンが一年半前の約半額まで下落するなど、さらに劇的な変化が続いている。このままでは、恐らく平成二一年に対馬を訪れる韓国人は激減するだろう。一方、日本も閉塞的な経済状況で、本土からの観光客が増える要因はなにもない。

これからの世界経済がどこへ流れていくのか、自信を持って言える人が誰一人としていない今、先のことを語るのには難しいが、対馬は好むと好まざるとにかかわらず、韓国とはより深く付き合っていくことになるだろう。

日本の国土として対馬の安全保障は重要な問題だが、それは大陸側に面した他の多くの島々にも言えることであり、小笠原諸島や南西諸島も同じ。韓国人、そして韓国資本の動向を把握しつつ、逆に積極的に韓国との交流を図っては

どうか。すでに、アリラン祭という長く続く交流イベントもあるのだから。

隣あった国同士は、世界中ほとんどどこでも仲が良くないものだが、お互い引越しするわけにはいかない。それならば、機会をとらえてお互いの理解を深める、通信使が往来した時代のような交わりができれば、最良の安全保障になるはずだ。日本を手軽に理解してもらえる場や仕組みを、対馬でつくり上げていくことが、今後求められていくのではないか。

対馬島 data

福岡市から宍岐を経て147km、長崎県最北端に位置する国境の島。韓国釜山からは49.5km。面積696.1km²、周囲832.9km、人口36,905人（平成20年12月現在）。全島の約90%が標高300~500mの山地となっており、原生林を含む山林で覆われている。ツシマとは津（港）の島という意味で、原始・古代以来、大陸の文化を伝える窓口として交通の要衝となっていた。室町時代以降、宗氏が島主として永く支配し、鎮国以降は朝鮮との外交・貿易を宗氏の対馬藩が独占するなど特権を保ち、朝鮮通信使の受け入れにもあたっていた。平成16年3月に2郡6町が合併し、1島1市の対馬市が誕生した。

